

公 害 資 料
No. 126
横浜市公害対策局

横浜の川と海の生物

(第4報)

昭和61年3月

横浜市公害対策局

IV アンケート調査

Ⅲ アンケート調査

—家のまわりの自然たんけん—

1. はじめに

数年前に、市公害対策局による帷子川の河川敷内の生物調査に、自然愛護の面からの教材性の追究ということも含め、小学校生物研究会（以下、会という）として、一諸に参加したことがある。開発が進む横浜市であるが、意外と自然が残っているということ、自然のつりあいなどについて、調査後、感想が出された。その後、会としては、学区内の植物調査や教材性について検討してきた。

この度、横浜市公害対策局水質課から、「横浜市内生物相調査」について、依頼をうけた。以前から、社寺林や市民の森についても調査していたので、

- 市内の生物の現状を知ること
- 子どもが身近な生物の様子に気づき、横浜の自然について理解を深めてもらうことを考え、調査をひきうけることにした。

調査は市内の小学生によるアンケートを中心とし、横浜市内の学校へできうる限り協力を願った。調査時期の問題もあり、その時期に見えずというものもあったので、時期をずらしたり、会の方で歩くなどして、できる限り、確かな情報にするようにしたが、会員の人数や時間の問題もあり、十分とは言いきれないところもある。市公害対策局水質課の湧水調査のデータも使わせてもらった。

生物相の調査をすることにより、自然そのもの、人と自然などについて、少しでも考えることができるなら、それが、子ども達に伝えられていくのなら、と思う。

（横浜市立神大寺小学校 黒川光慶）

2. 調査方法

(1) アンケートの対象

子供は生き物がたいへん好きで自分の家の近くの生物相をよくつかんでいる。特に小学生は魚つり、虫取りによく行き、情報はだれよりも多く持っている。そこで今回は、中学生、高校生を省き小学生のみをアンケートの対象とした。対象学年は2年生以上とした。2・3・4年生は担任教師の聞き取りを十分にして正確な情報を得られるようにした。学区の意識が十分でない1年生は対象から外した。

アンケートは、学級単位、クラブ、委員会など任意のものとした。

(2) アンケートの方法

「家のまわりの自然たんけん」という2枚組の調査用紙（次ページ参照）を子供にわたし、教師が1枚目の用紙で調査方法を説明し、2枚目のみを回収した。

説明の要点は

- ア. 調べる地域は学区を中心とし、「家のまわり」とは歩いて行ける範囲とする。
- イ. 子供が自分で確認できたものに限ることとし、話として聞いたものは含まない。
- ウ. 調査年度（昭和59年1月～10月）に確認できたものに限る。
- エ. 他のところで取ってきたり、買ってきて自分で育てているものは含まない。
- オ. 見つけた場所を教師に伝える。

の5点とした。

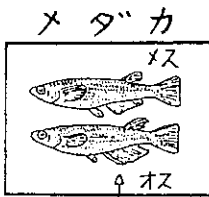
1. 家のまわりの自然たんけん

みなさんの家の近くには ザリガニ・ドジョウ・ホタルなどの生き物はいませんか。どこに、どんな生き物がいたか教えてください。

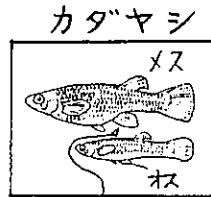
せり方

1. 見つけたり、取ったりしたことのあるものには、絵に○をつけてください。
2. 見つけたことがないものには、絵に×をつけてください。
3. ずっと前（1年以上前）や 友達・家の人の見つけたものには ○をつけなくてください。
4. 見つけた場所を書いてください。あとで先生に教えてください。
5. 2まいめの紙だけを先生に出してください。
6. よく似ていて、まちがえやすいものがあります。下の絵を見て調べましょう。

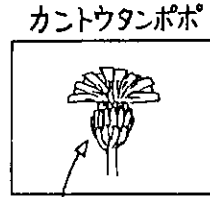
まちがえやすい生き物



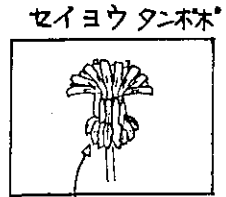
しりびれがおおさい



しりびれが小さい



花の下がくっついている



花の下がひっくりかえっている



カワニナはみざまき



サカマキガイはひざりまき



ヒメモノアラガイはみざまき




2. 家のまわりの自然たんけん

- いたとき、見つけたときは、絵を○でかこんでください。
- いないとき、見つけられなかったときは、絵に×をつけてください。
- 絵の横に、いたところ、見つけたところの場所を書いてください。

小学校	
学年	名前
学号	定名

(この紙に書いて先生に届けてください)


・やり芳の例・

	いたところ 神社の うらのがけ
--	-----------------------

7. ゲンゴロウ いたところ

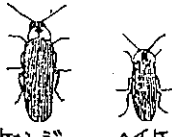
	
---	--

14. コイ いたところ

	
--	--

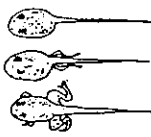
ひけがある

1. ホタル いたところ


	
--	--

ゲンジ ハイケ


8. オタマジャクシ いたところ

	
---	--


15. ドジョウ いたところ

	
--	--

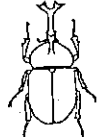
2. カワナナ いたところ

	
---	--


9. ヨシノボリ いたところ

	
---	--

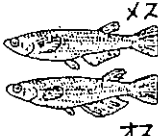
16. カブトムシ いたところ

	
---	--


3. サワガニ いたところ

	
--	--


10. メダカ いたところ

	
---	--


17. クワガタ いたところ

	
---	--

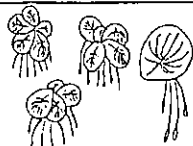
4. ヤゴ いたところ

	
--	--

11. アブラハヤ(ハヤ) いたところ

	
---	--


18. ウキクサ 見つけたところ

	
--	--

5. タニシ いたところ

	
---	--

12. モツジ(フナボリ) いたところ

	
---	--

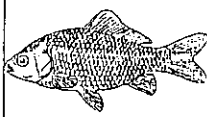
19. カントウタンポポ 見つけたところ

	
--	--

6. アメリカザリガニ いたところ

	
---	--

13. フナ いたところ

	
---	--

20. ドングリのなる木 見つけたところ

	
--	--

調査用紙には、同定のむずかしい種を「まちがいやすい生き物」として図示し、区別の要点を示した。回収する用紙には調査する種を図で示し、みついたら○、みつけれないときは×を付け、「みつけたところ」を書かせるようにした。

なお、口頭による「どこのわき水でサワガニをみた」という報告も情報として取りあげることにした。

(3) 調査に取りあげた種

調査の対象とする種は水質の基準を示す種や、都市化を示す種等から代表的なものを選び、学校での学習とも考え合せ、以下の20種とした。

ア. 水辺の小動物；ホタル、カワニナ、サワガニ、ヤゴ、タニシ、アメリカザリガニ、ゲンゴロウ、オタマジャクシ

イ. 魚；ヨシノボリ、メダカ、アブラハヤ、モツゴ、フナ、コイ、ドジョウ

ウ. 昆虫；カブトムシ、クワガタ

エ. 植物；ウキクサ、カントウタンポポ、ドングリのなる木

水辺の小動物では、ホタルとその生育を可能にするカワニナの分布を調べる。サワガニは湧水との関係が考えられる。ヤゴ、タニシ、アメリカザリガニ、ゲンゴロウ等は理科の学習でも教材となっている。両生類としてはダルマガエル、ウシガエルなどが考えられるが、カエルの生息をオタマジャクシで代表させた。

魚類では、ヨシノボリ、アブラハヤなど、子供には多少なじみのないものが入れているが、高学年になると、つりにも興味を持つものが多いので取りあげた。ドジョウは、シマドジョウ、ホトケドジョウなどの分布も興味があるが、同定が難しいことも考えられるので、ドジョウとして一括した。

昆虫は、子供の最大の興味として、カブトムシ、クワガタの2種とした。

植物では、水田、池との関連を考えてウキクサ、生物指標としてカントウタンポポを入れた。また、地域の自然林構成種を考え、「ドングリとなる木」とした。これは、コナラ、クリ、クヌギなどを主とする雑木林、常緑のシイ・カシ類を主とする照葉樹林・社寺林などを含めたつもりである。以上20種は、特に水辺を中心としたものになっている。

(4) 調査のまとめ方

アンケートは学校単位でまとめ、それを学区図に種ごとにポイントを落としてもらった。また、口頭による情報は、学区内で調査する種をみつけたか、みつけていないかだけをまとめてもらうことにした。

小学校の学区ごとにまとめた結果は、横浜市立学校分布図(1:30,000 1984年・横浜市教育委員会)をもとに1Km×1Kmのメッシュに調査対象の種が分布しているか、いないかを示した。

たとえ1個体でも情報が寄せられればメッシュ1ますは、「分布」を示すことにした。したがって調査結果は定性的なものとなる。

調査結果は、1種ごとに分布図としてまとめ、分布率を百分率で示した。

(横浜市立桜台小学校 和泉良司)

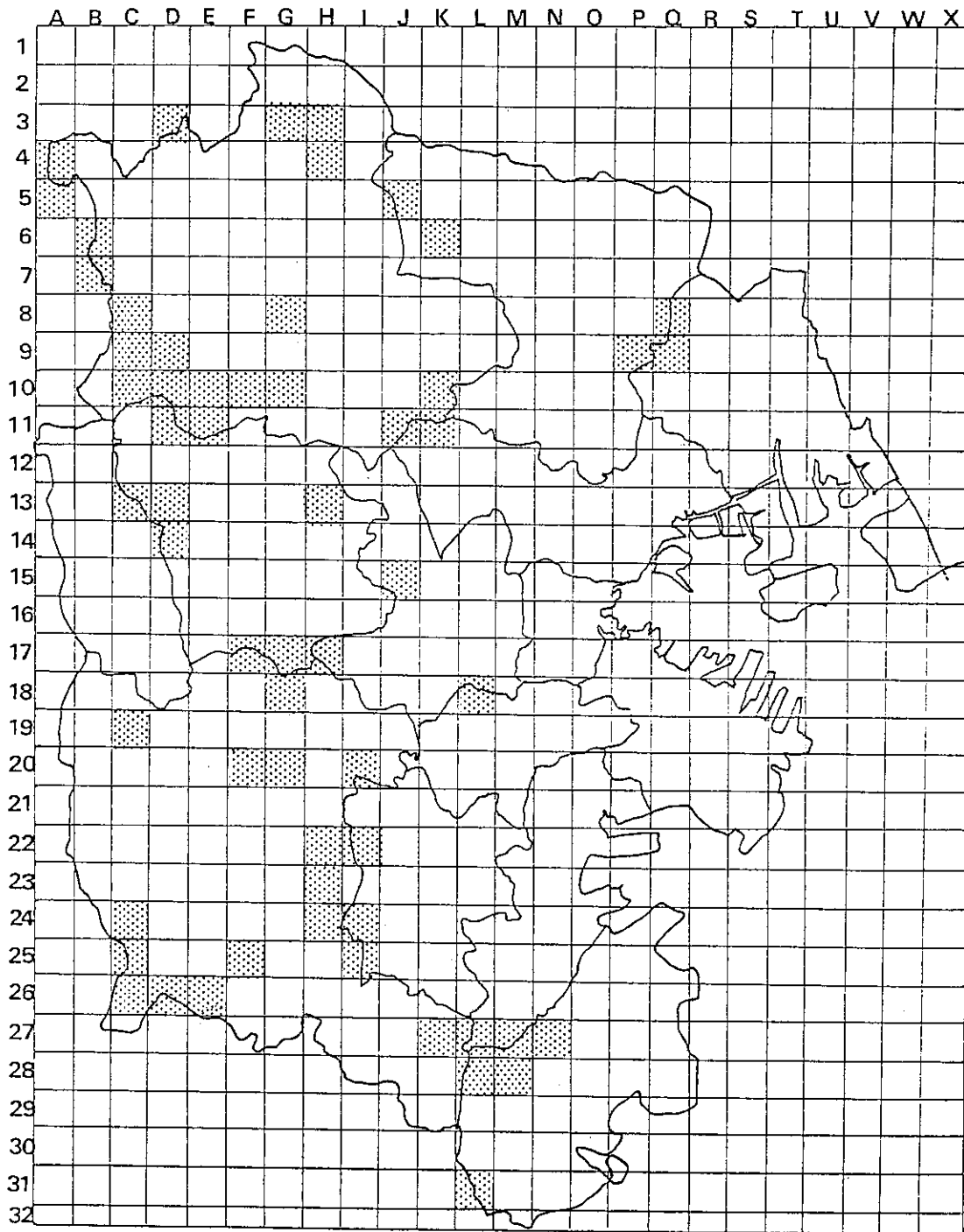
3. 調査結果, 分布図

- | | |
|--------------|----------------|
| (1) ホタル | (11) アブラハヤ(ハヤ) |
| (2) カワニナ | (12) モツゴ(クチボソ) |
| (3) サワガニ | (13) フナ |
| (4) ヤゴ | (14) コイ |
| (5) タニシ | (15) ドジョウ |
| (6) アメリカザリガニ | (16) カブトムシ |
| (7) ゲンゴロウ | (17) クワガタ |
| (8) オタマジャクシ | (18) ウキクサ |
| (9) ヨシノボリ | (19) カントウタンポポ |
| (10) メダカ | (20) ドングリのなる木 |

- ① メッシュ1マスは1 Km × 1 Kmを示す
- ② 分布図右上に分布率を示した。これは全メッシュ506に対して何メッシュで確認されたかを100分率で表している。

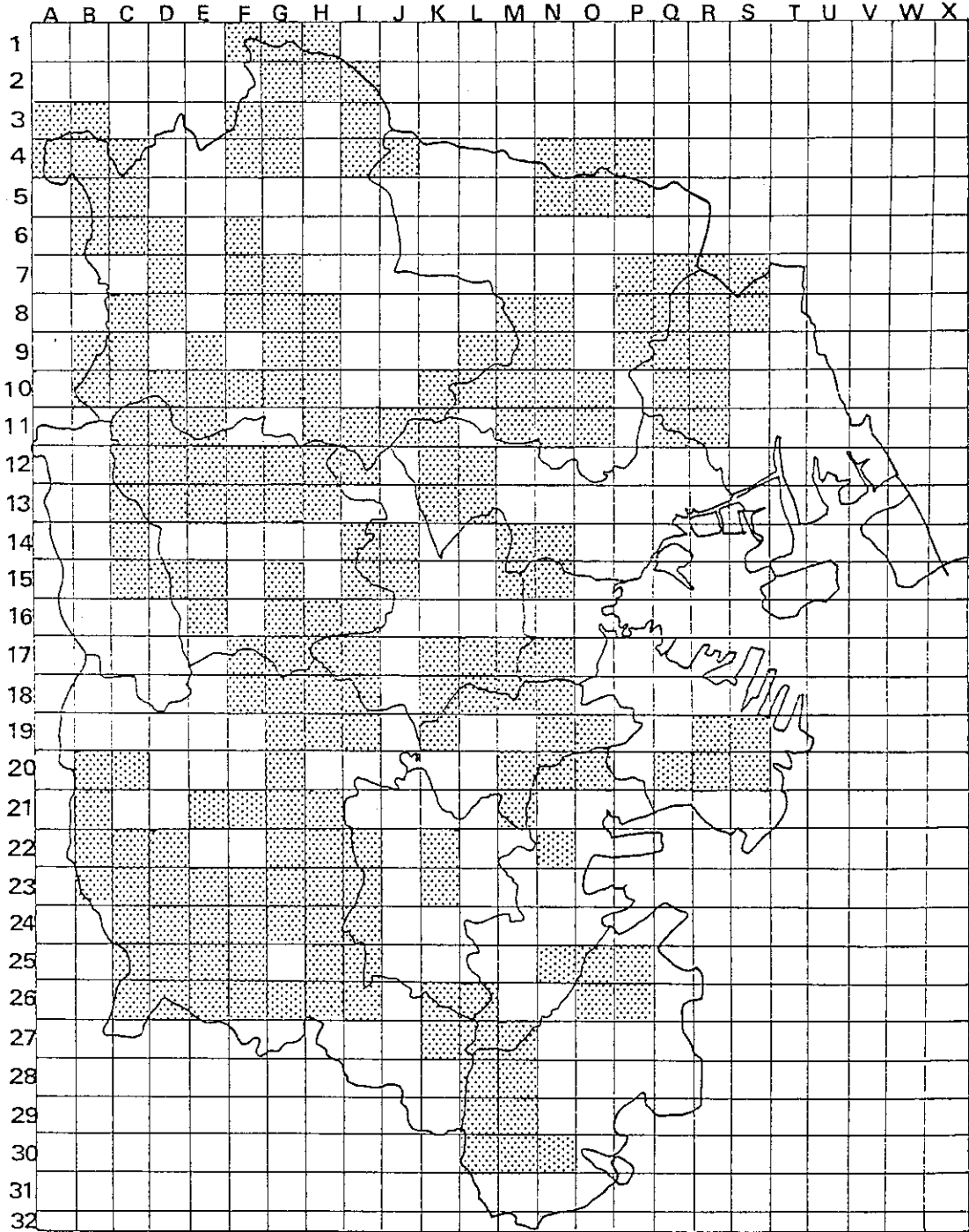
1. ホタル

58/506 = 11%



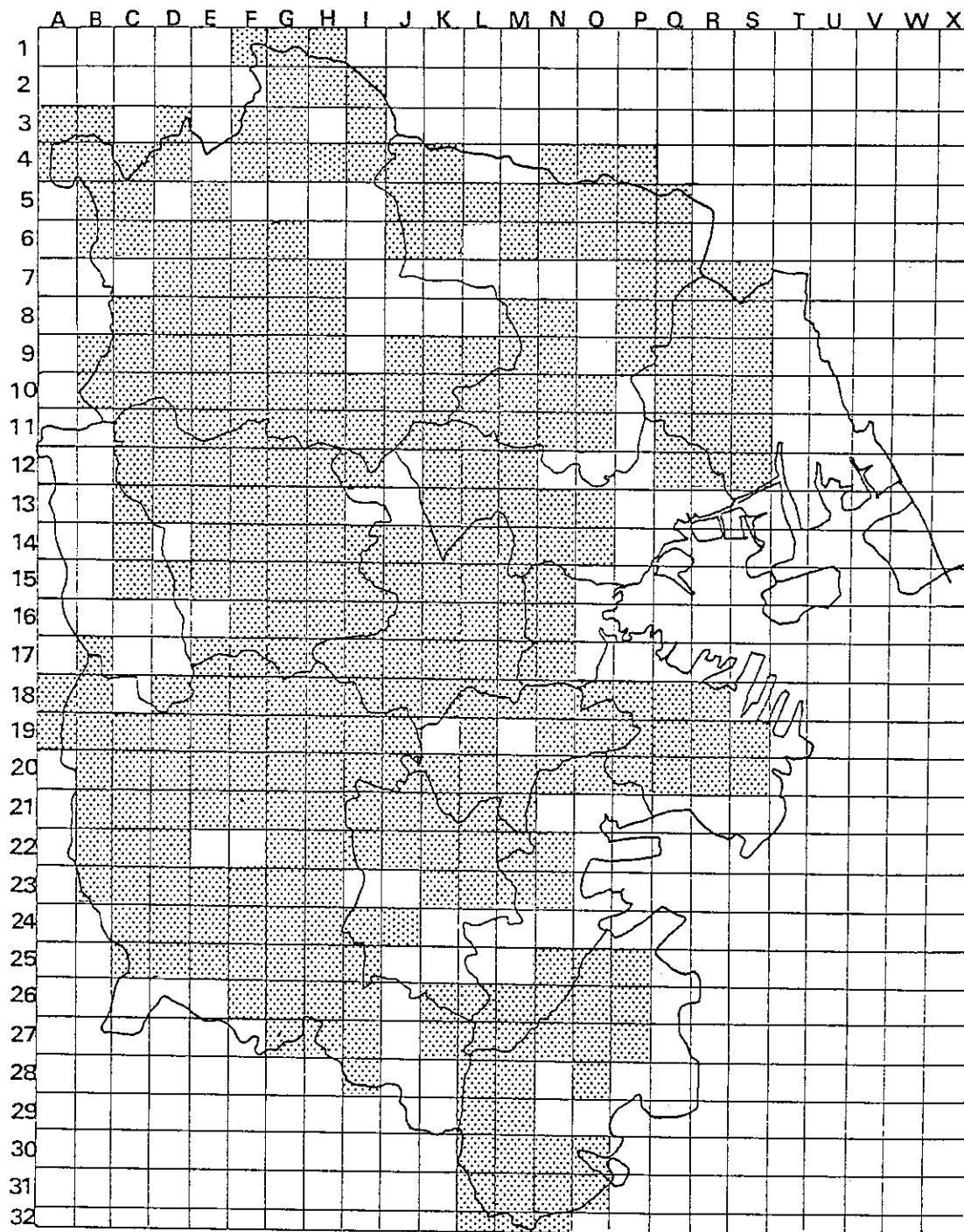
2. カワニナ

213/506 = 42%



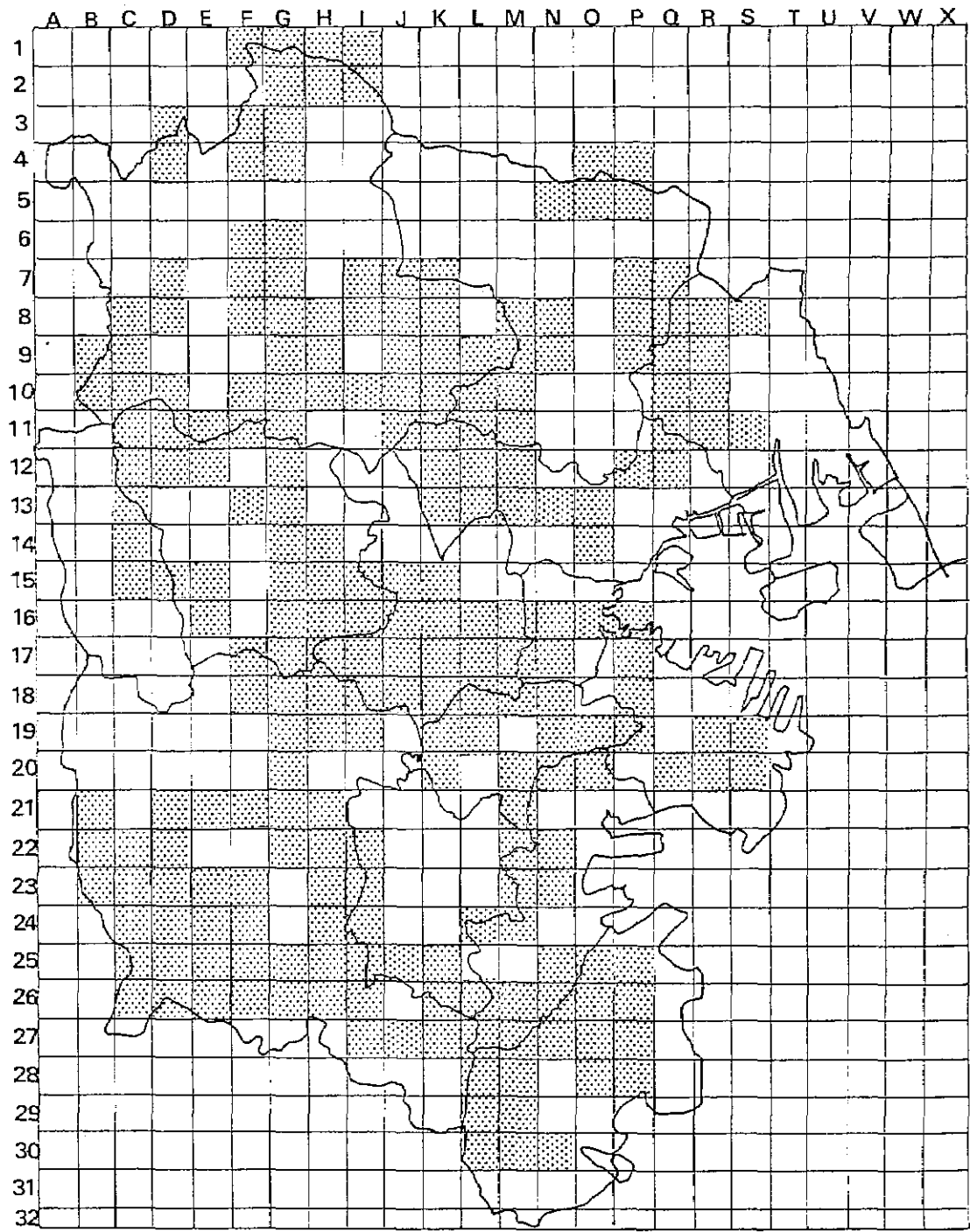
3. サワガニ

328/506 = 65%



4. ヤゴ

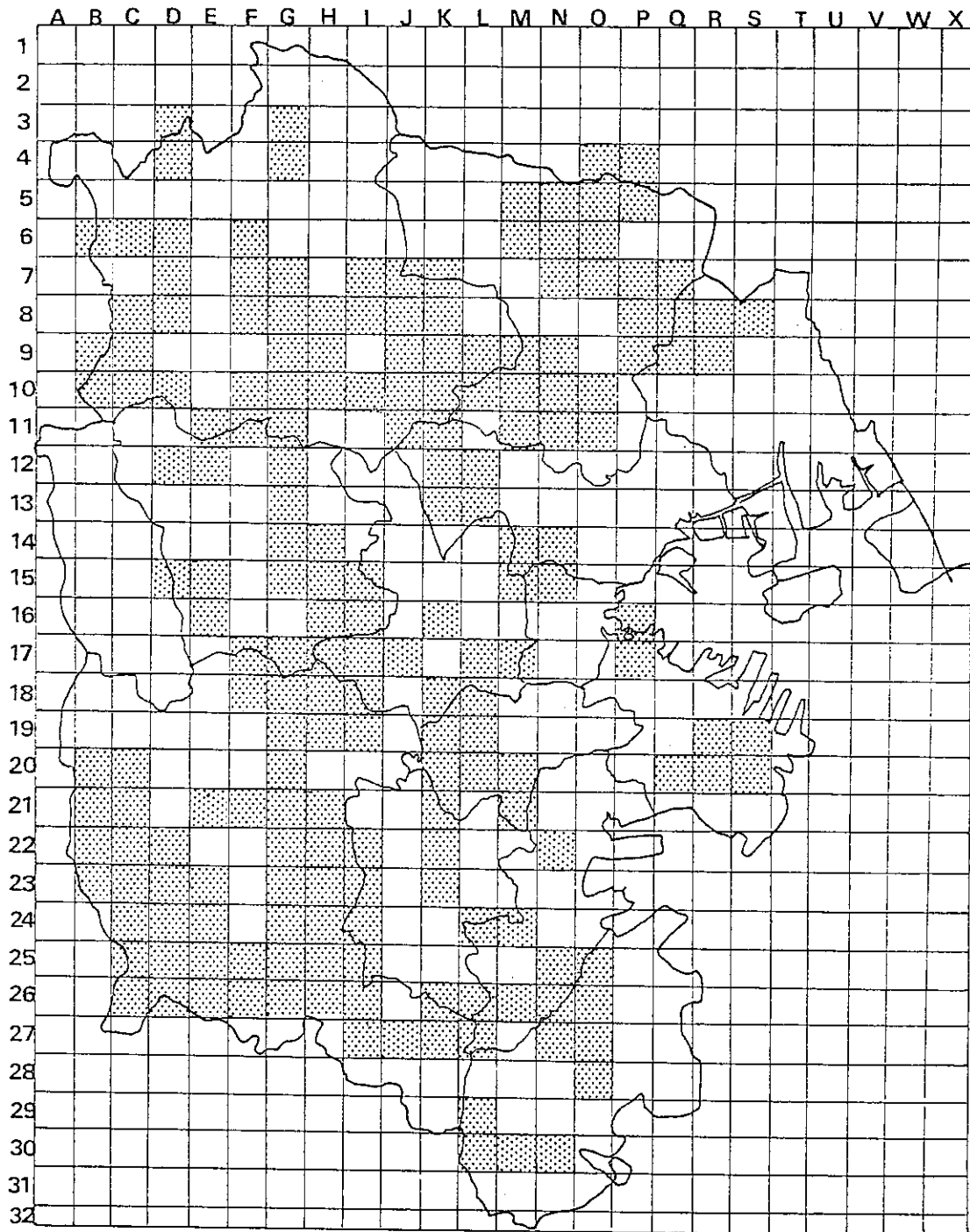
231/506 = 46%



1 km

5. タニシ

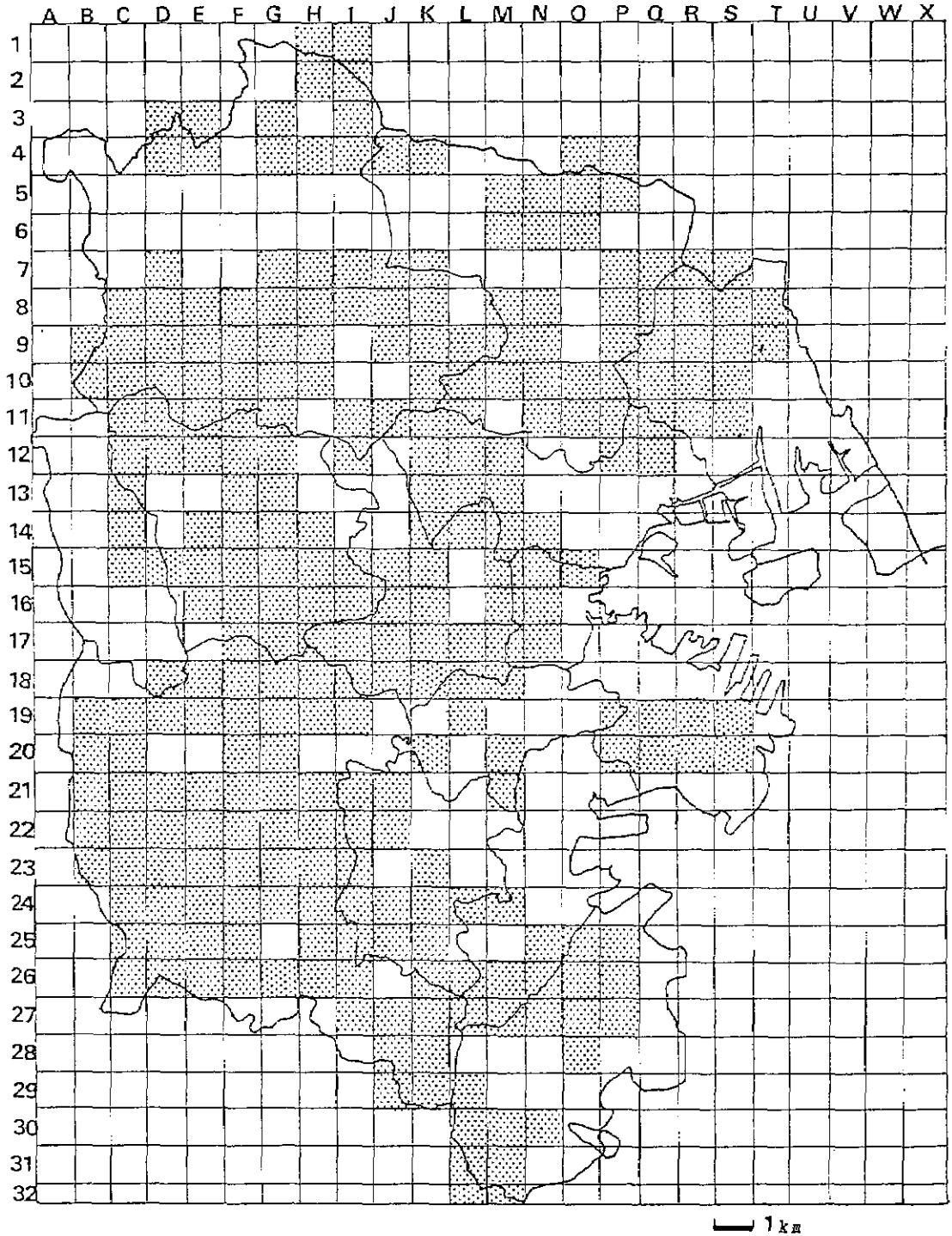
190/506 = 38%



1 km

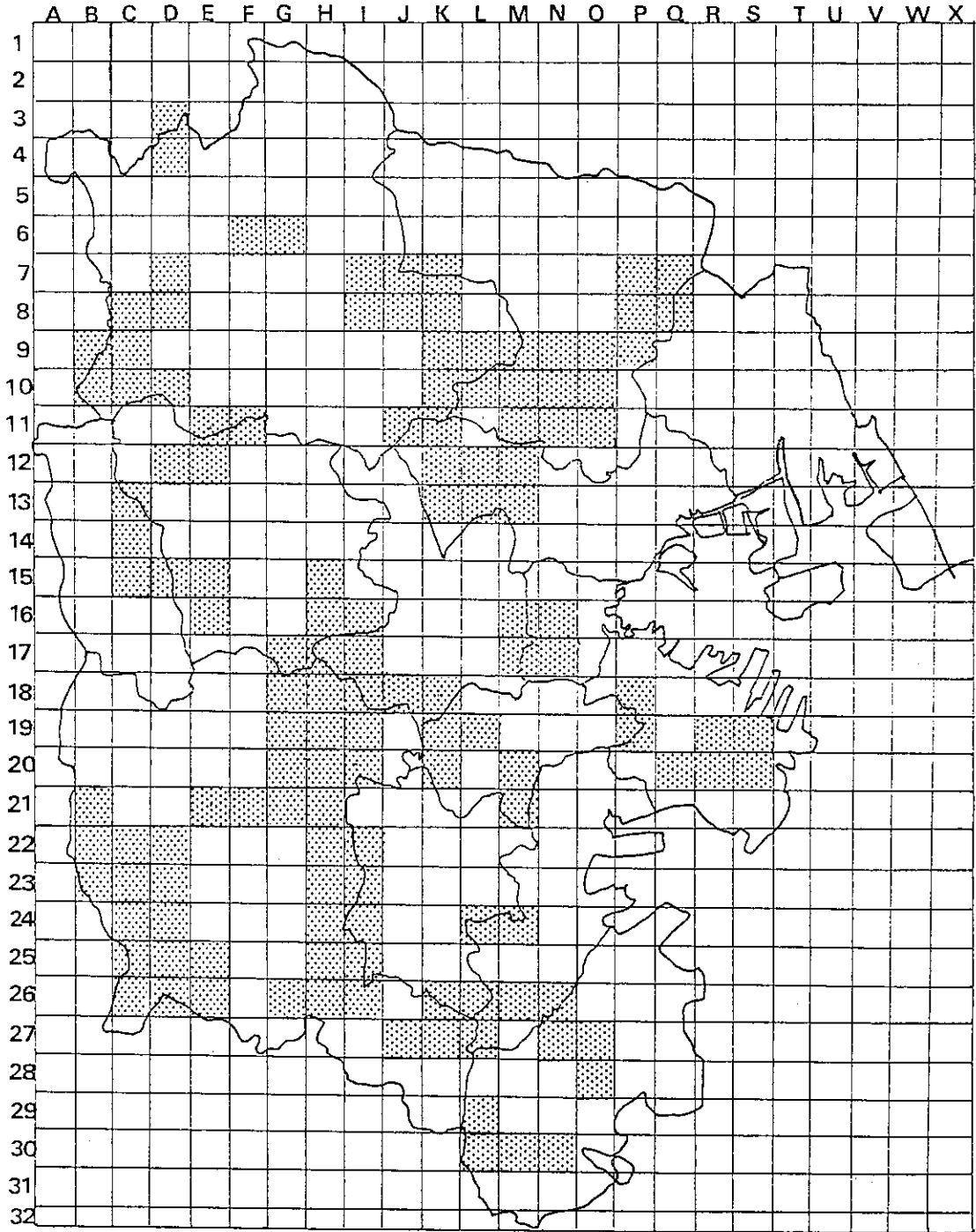
6. アメリカザリガニ

$$271/506 = 54\%$$



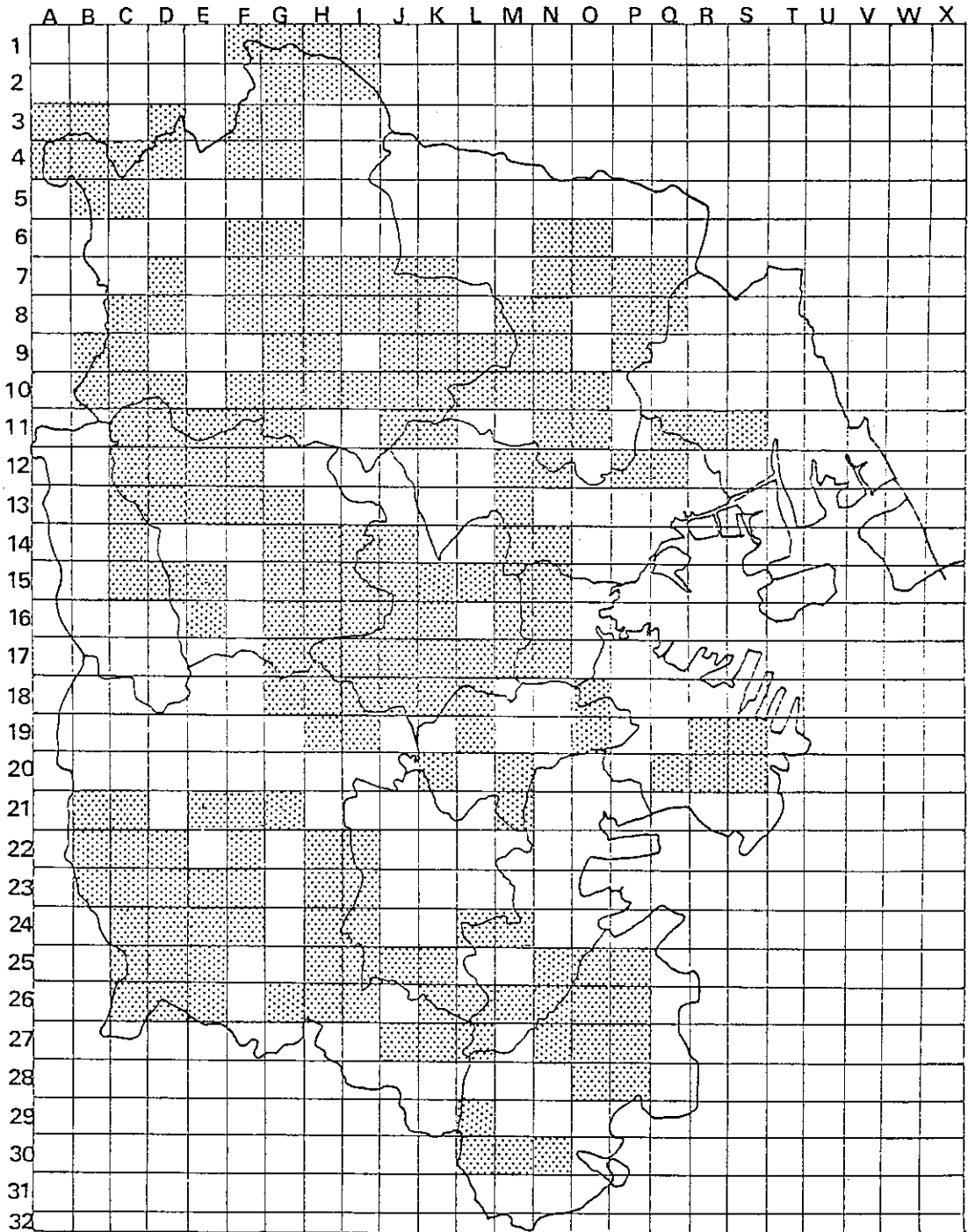
7. ゲンゴロウ

133 / 506 = 26 %



8. オタマジャクシ

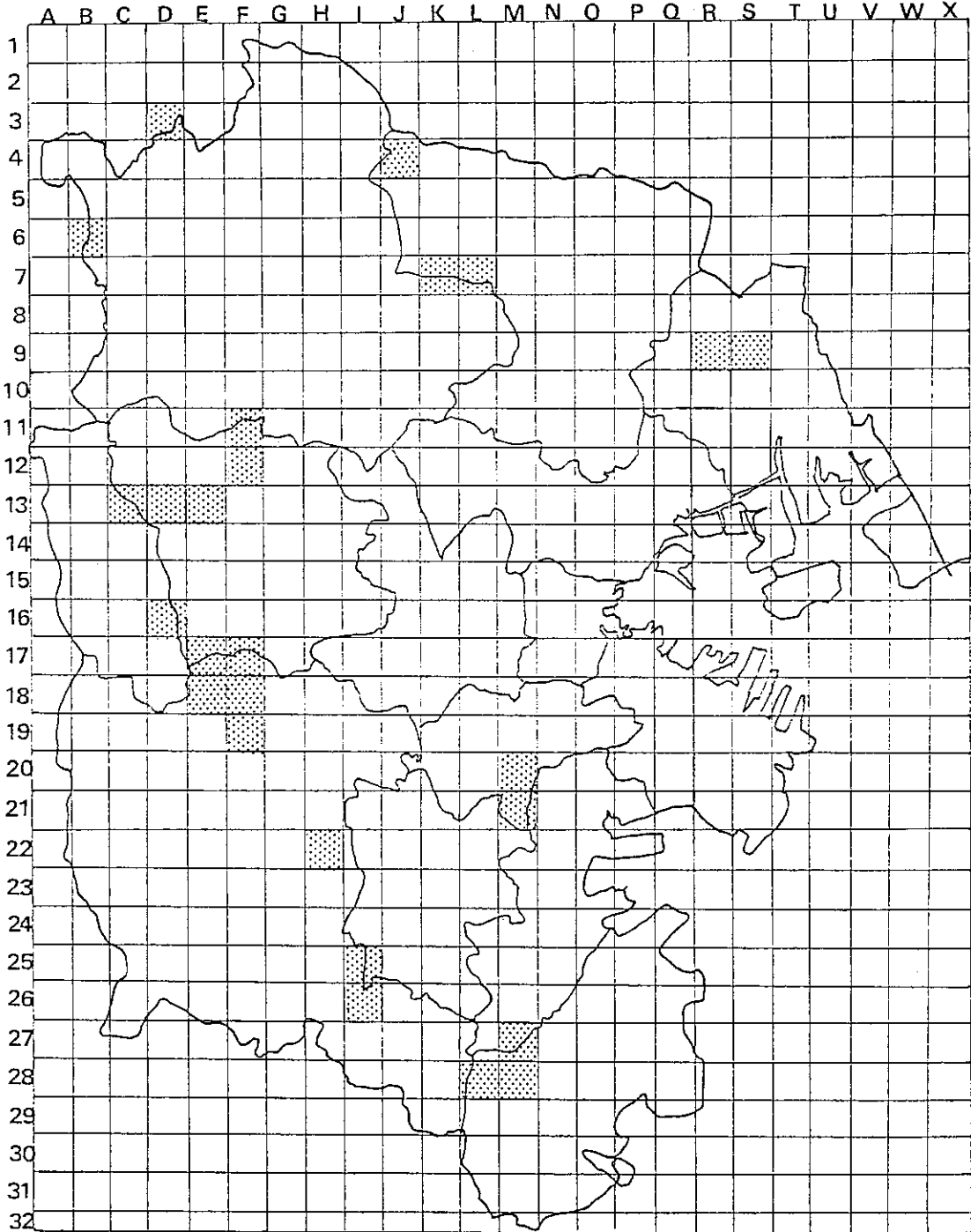
209/506 = 41%



1 km

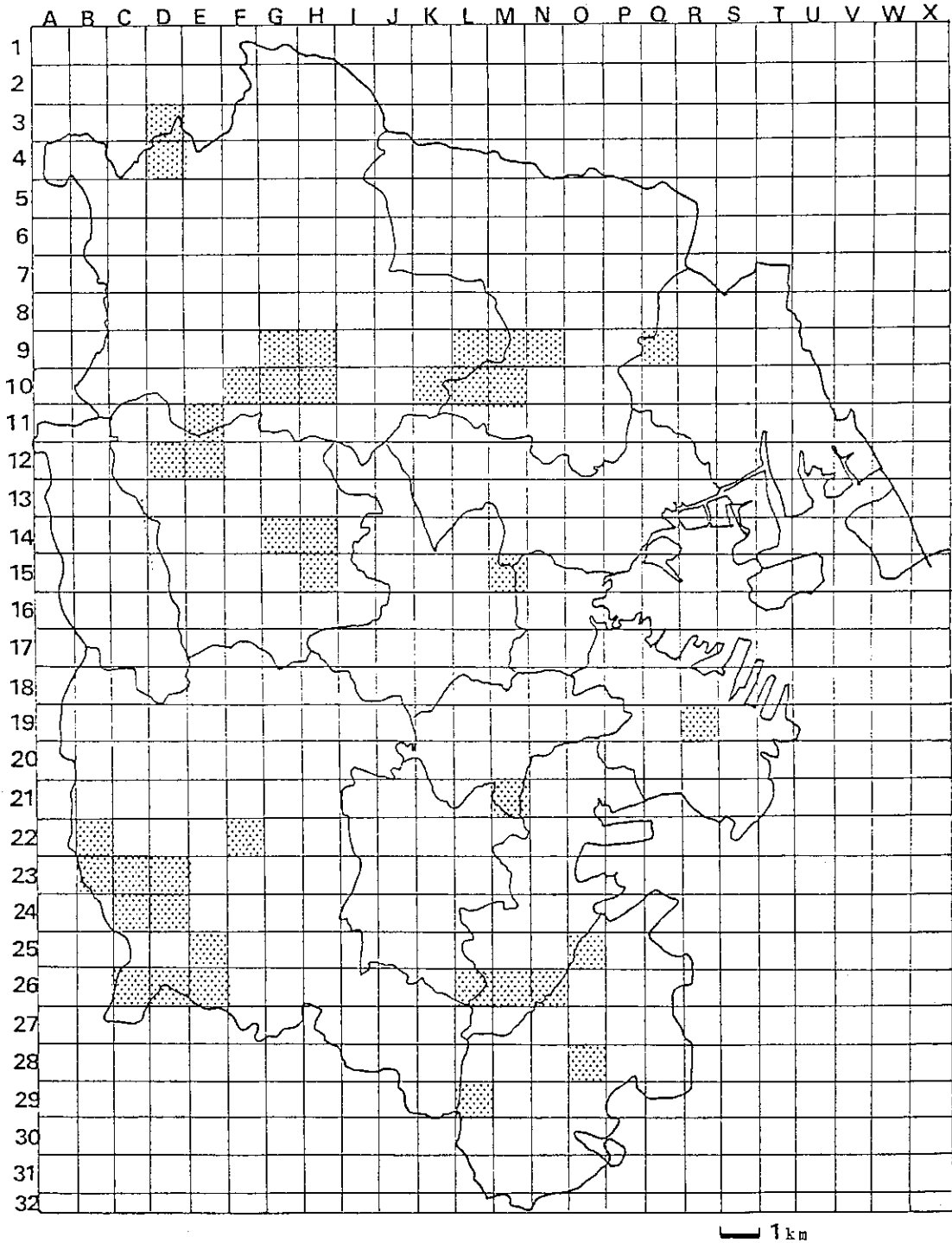
9. ヨシノボリ

27/506 = 5%



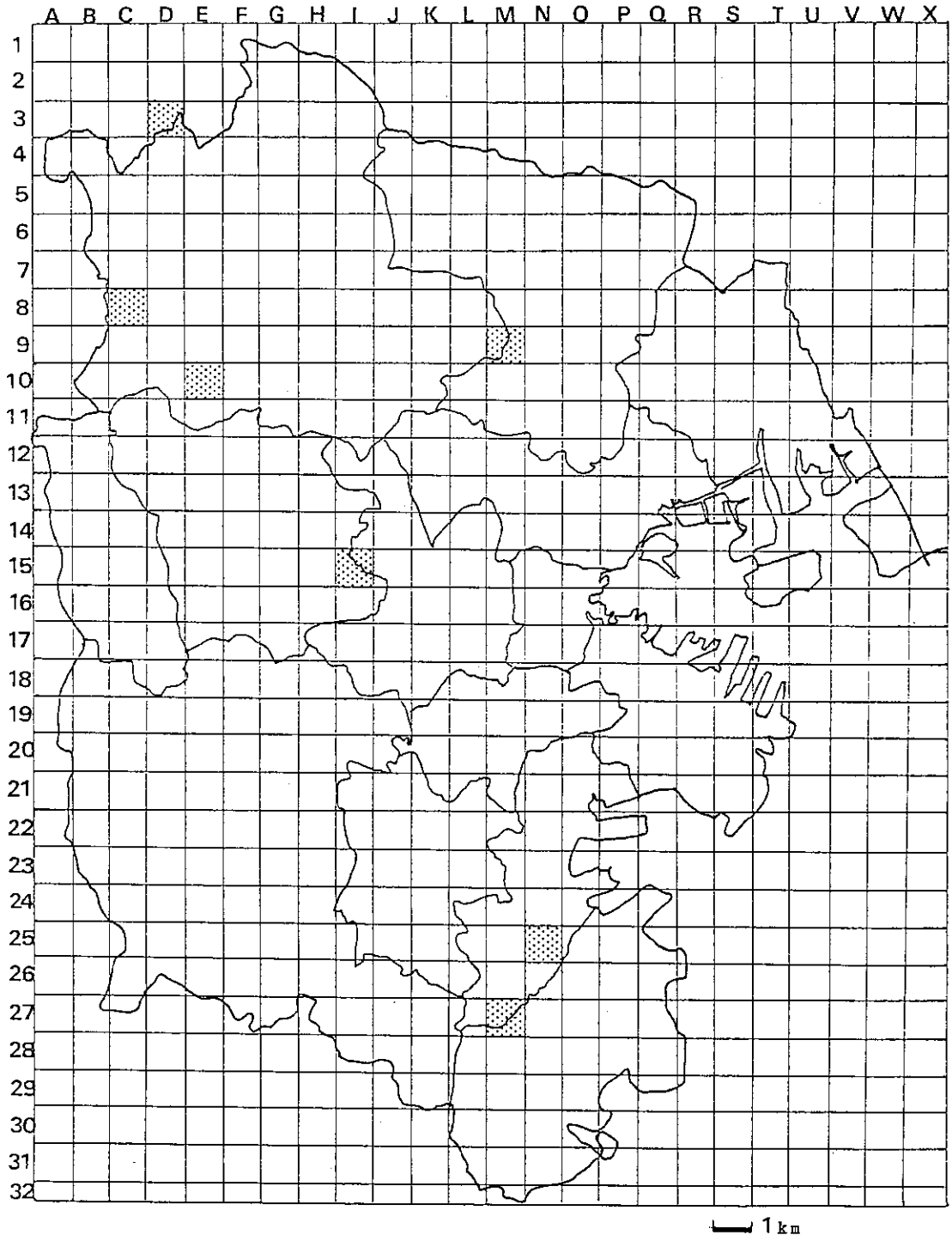
10. メダカ

41/506 = 8%



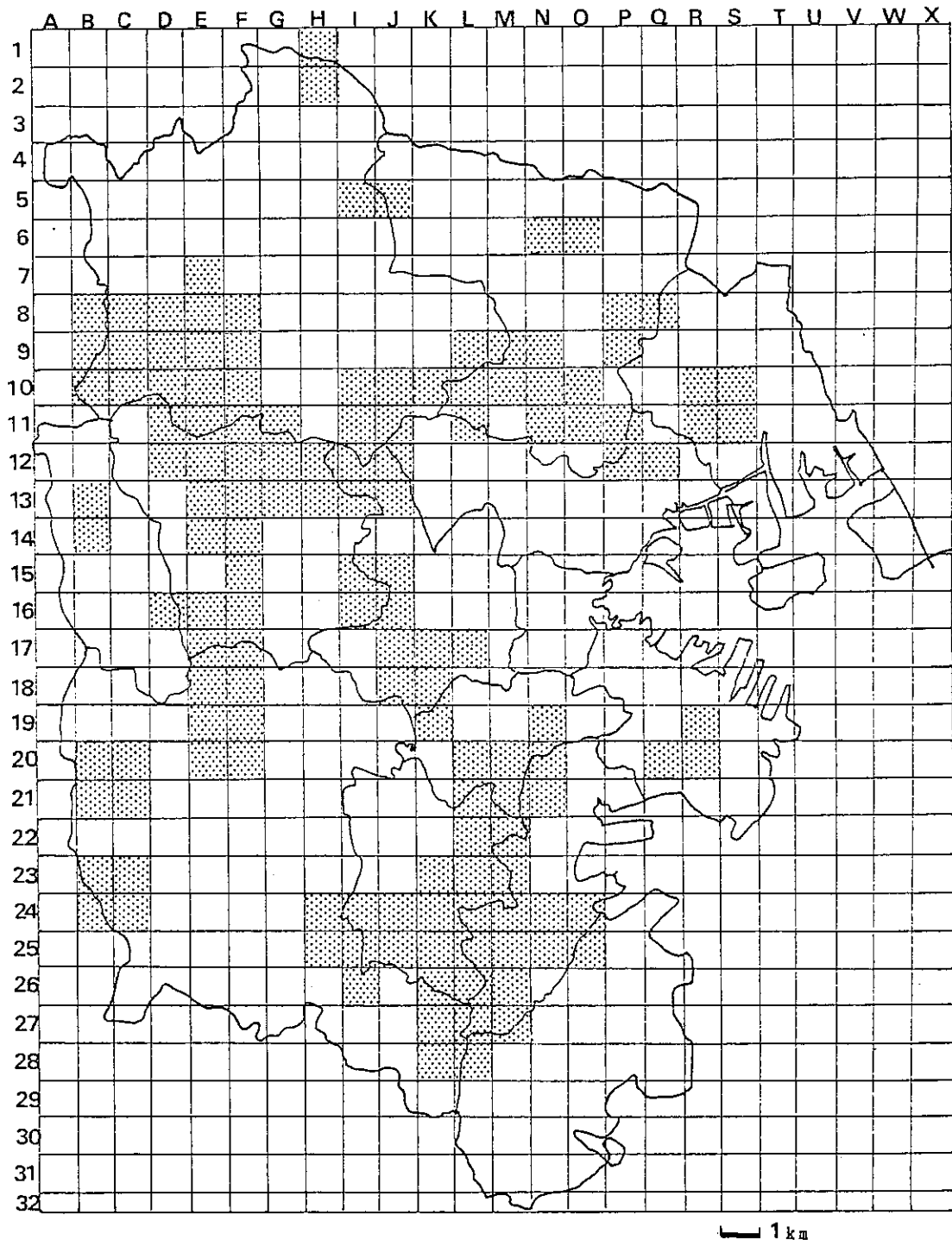
11. アブラハヤ

7/506 = 1%



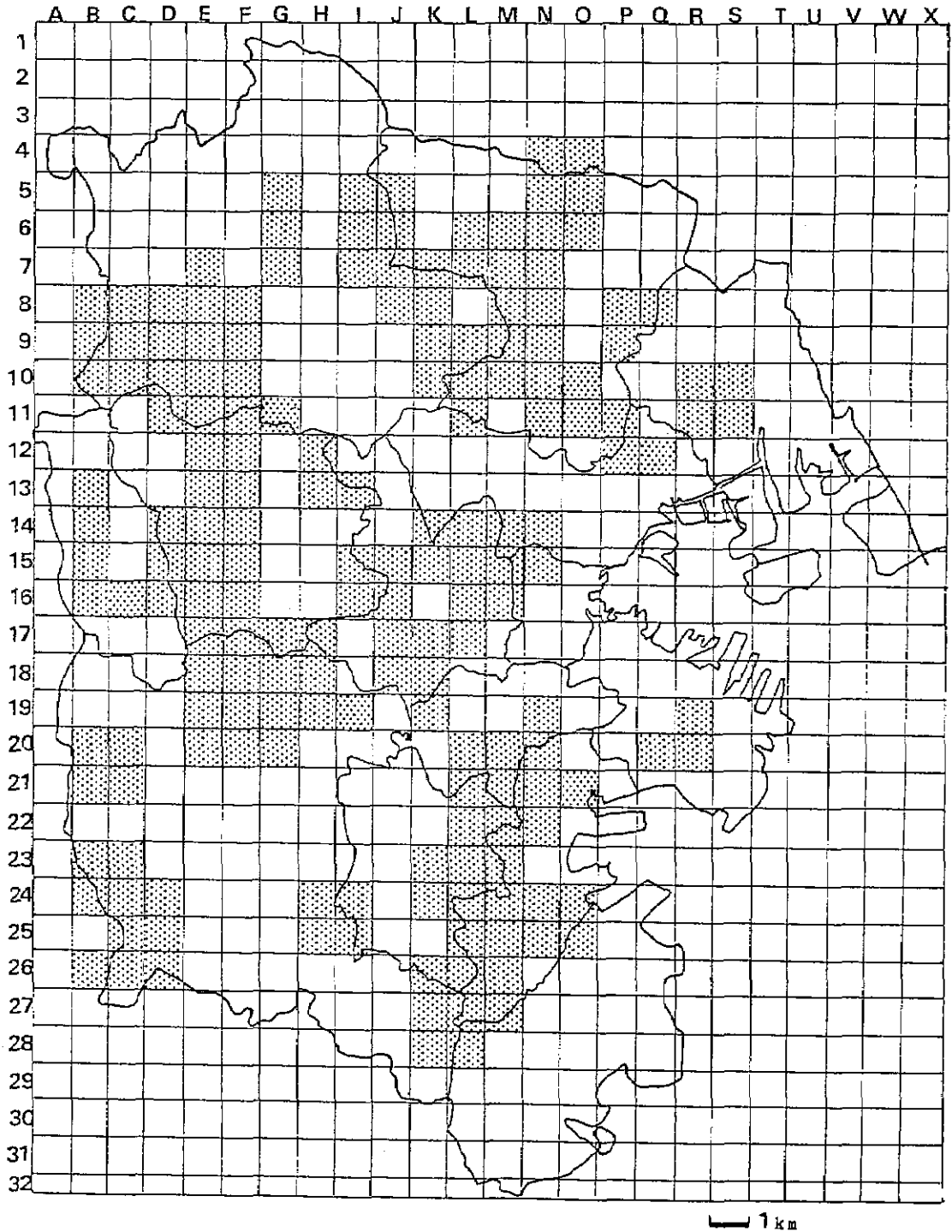
12. モツゴ (クチボソ)

138/506 = 27%



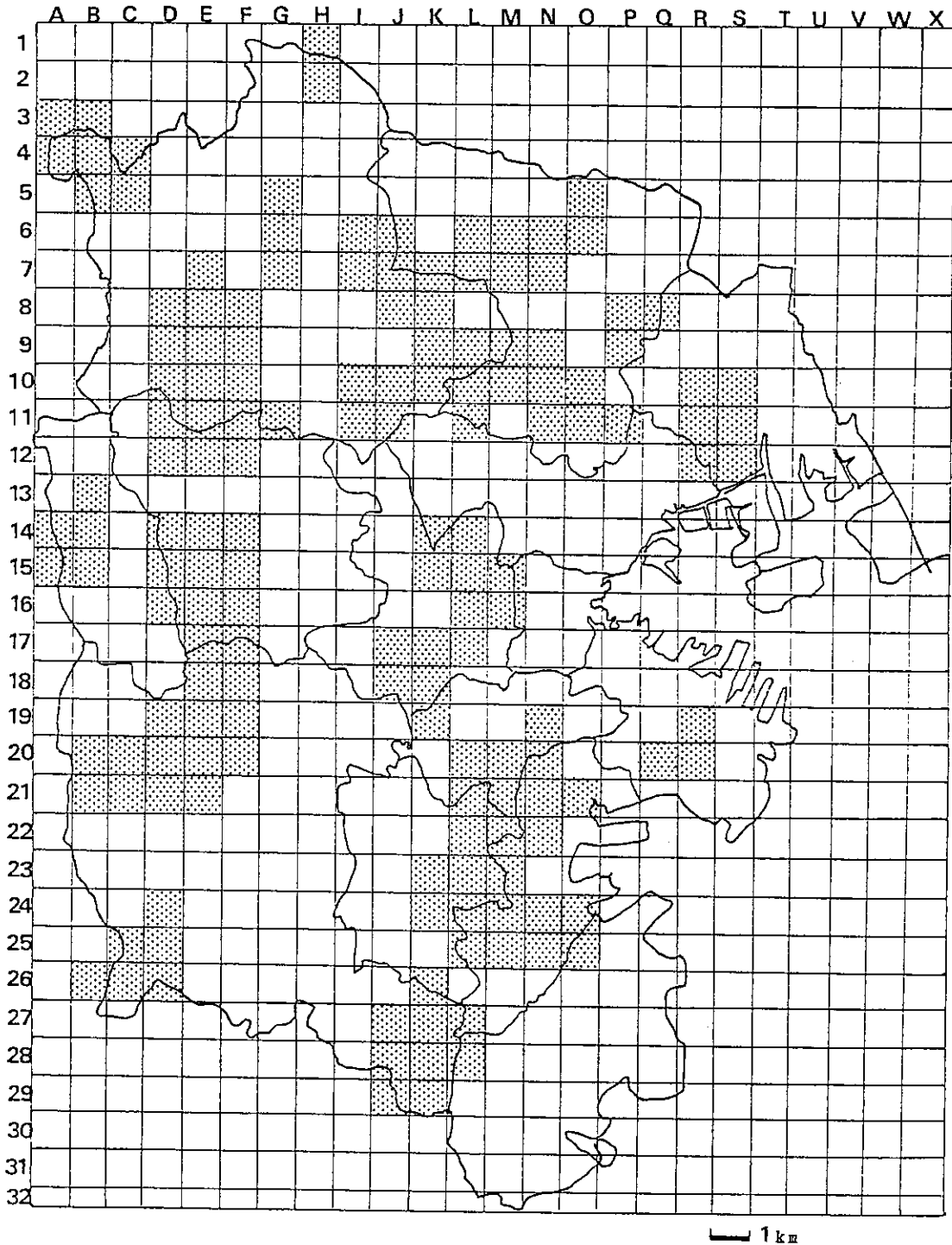
13. フナ

176/506 = 35%



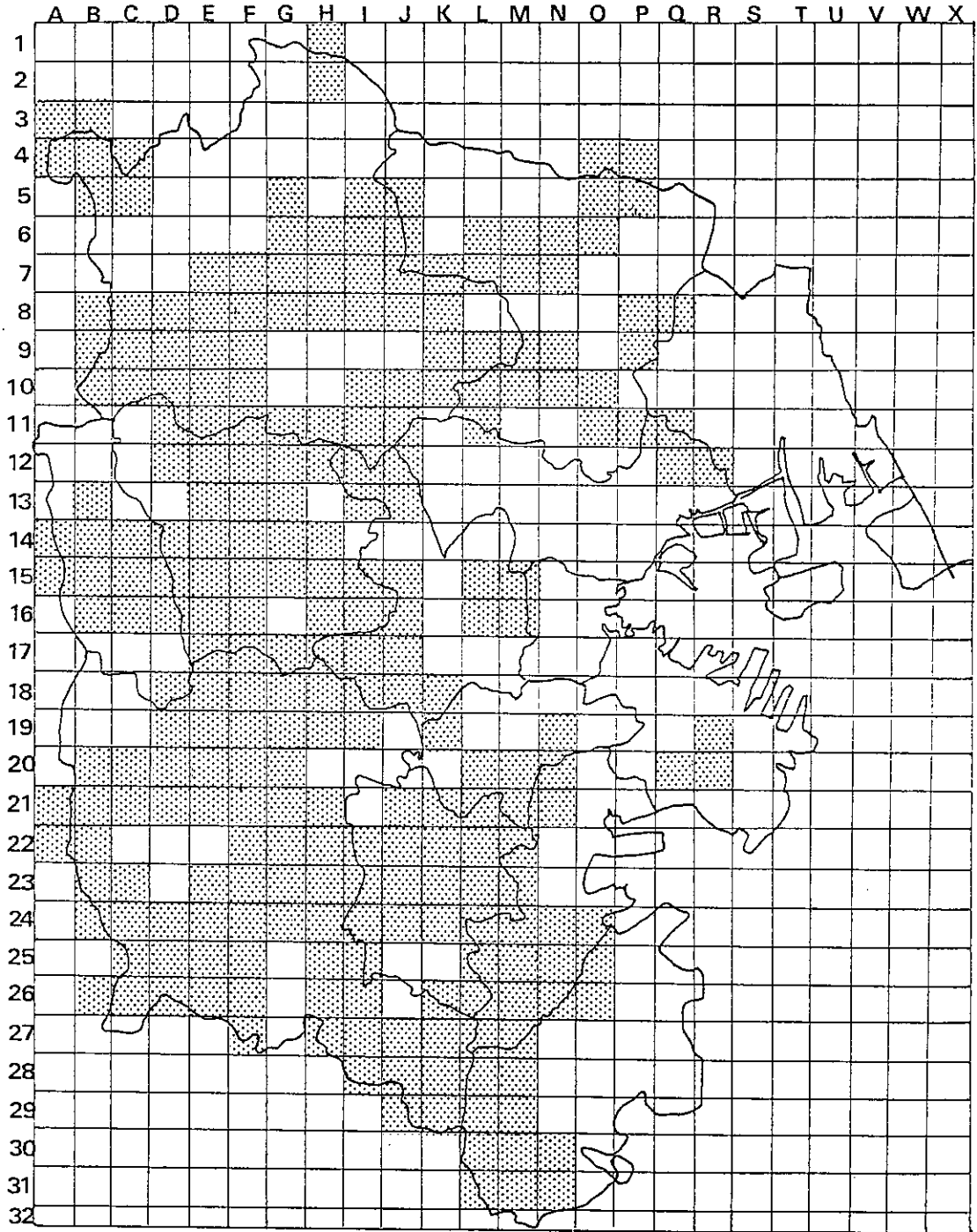
14. コイ

154/506 = 30%



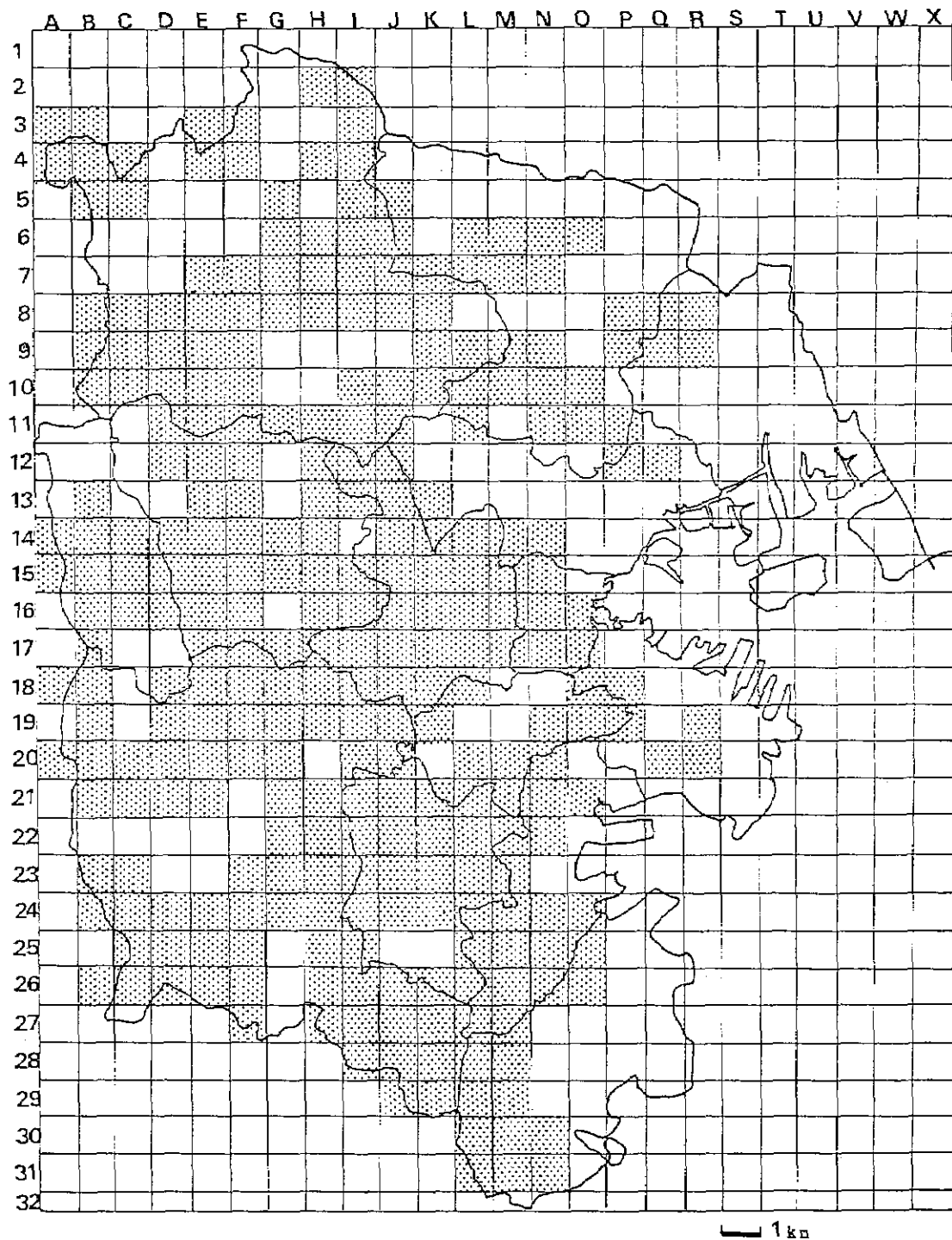
15. ドジョウ

250/506 = 49%



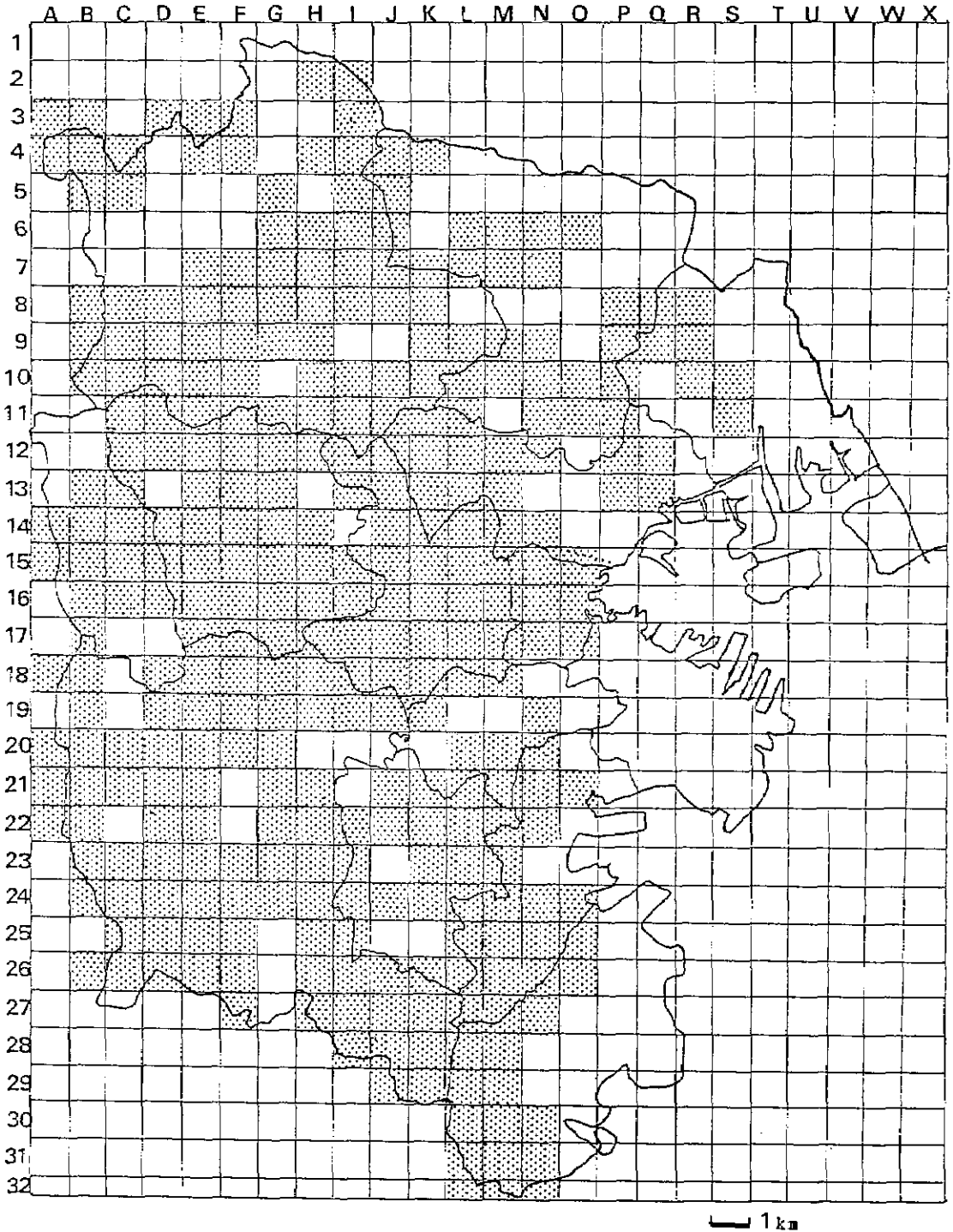
16. カブトムシ

282/506 = 56%



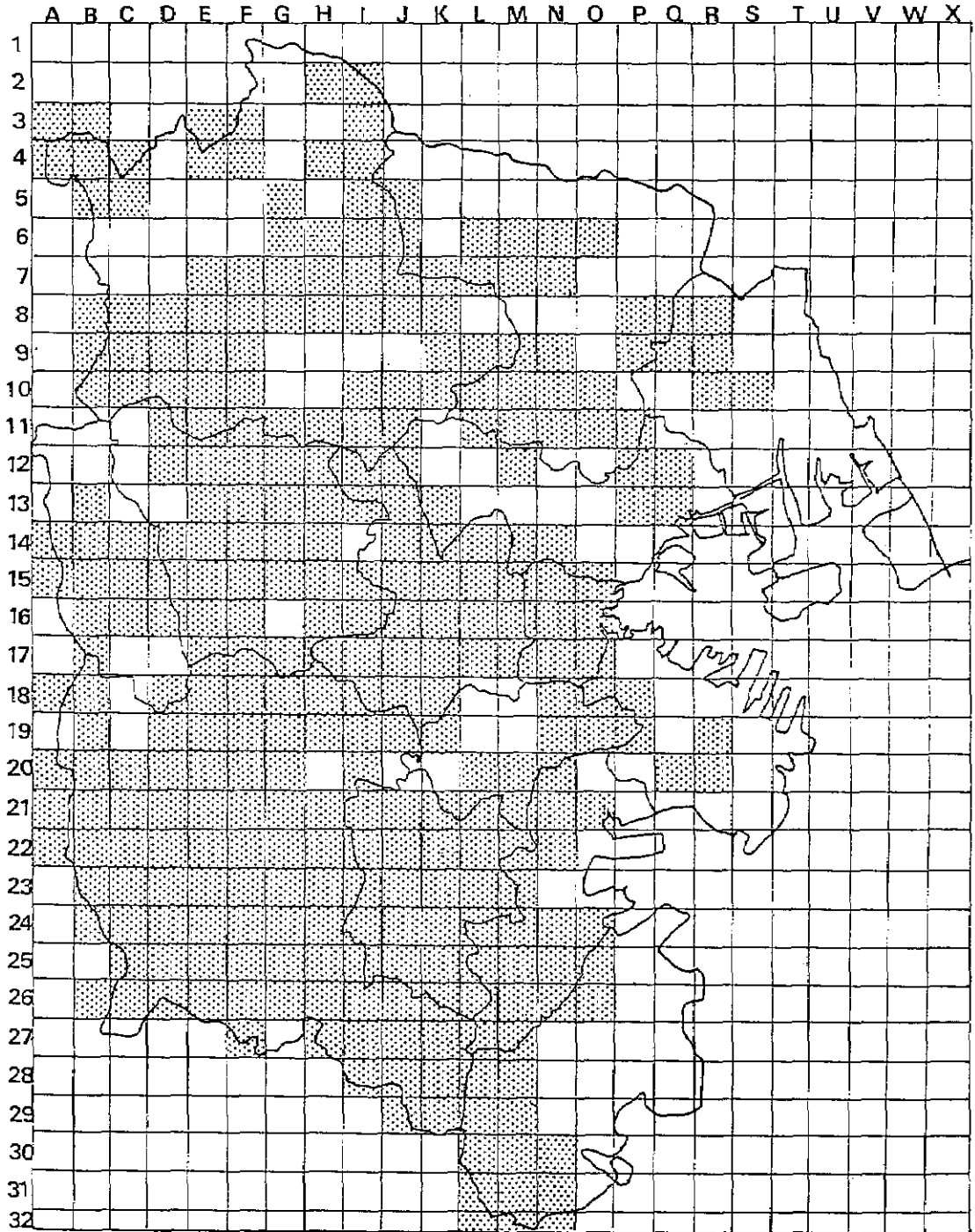
19. カントウタンポポ

298/506 = 59%



20. ドングリのなる木

309 / 506 = 61 %



横浜市小学校生物教材開発研究会

〔顧問〕

遠山 三樹夫 横浜国立大学教育学部

〔指導・助言〕

佐藤 脩 横浜市教育センター指導主事

堀江 信也 横浜市教育センター指導主事

佐宗 盈 二俣川小学校副校長

永野 武司 嶮山小学校副校長

堀 幸 大山小学校副校長

〔研究会員〕

中塚 英夫 東台小学校

福井 紘一 宮谷小学校

斉藤 小枝子 戸部小学校

大方 親良 洋光台第1小学校

黒川 光慶 神大寺小学校（代表）

和泉 良司 桜台小学校（横浜国立大学・大学院）

若林 高康 港南台第2小学校

角張 全子 藤の木小学校

阿部 美知子 大口台小学校

富樫 洋子 大口台小学校

本間 芳則 洋光台第1小学校

杉原 龍司 富士見台小学校

〔アンケート作成・集計協力〕

松本 希一 石川小学校

二村 純一 師岡小学校

石川 英雄 小机小学校

有馬 武裕 篠原小学校

和泉 幸子 朝比奈小学校

芦立 恵 朝比奈小学校